

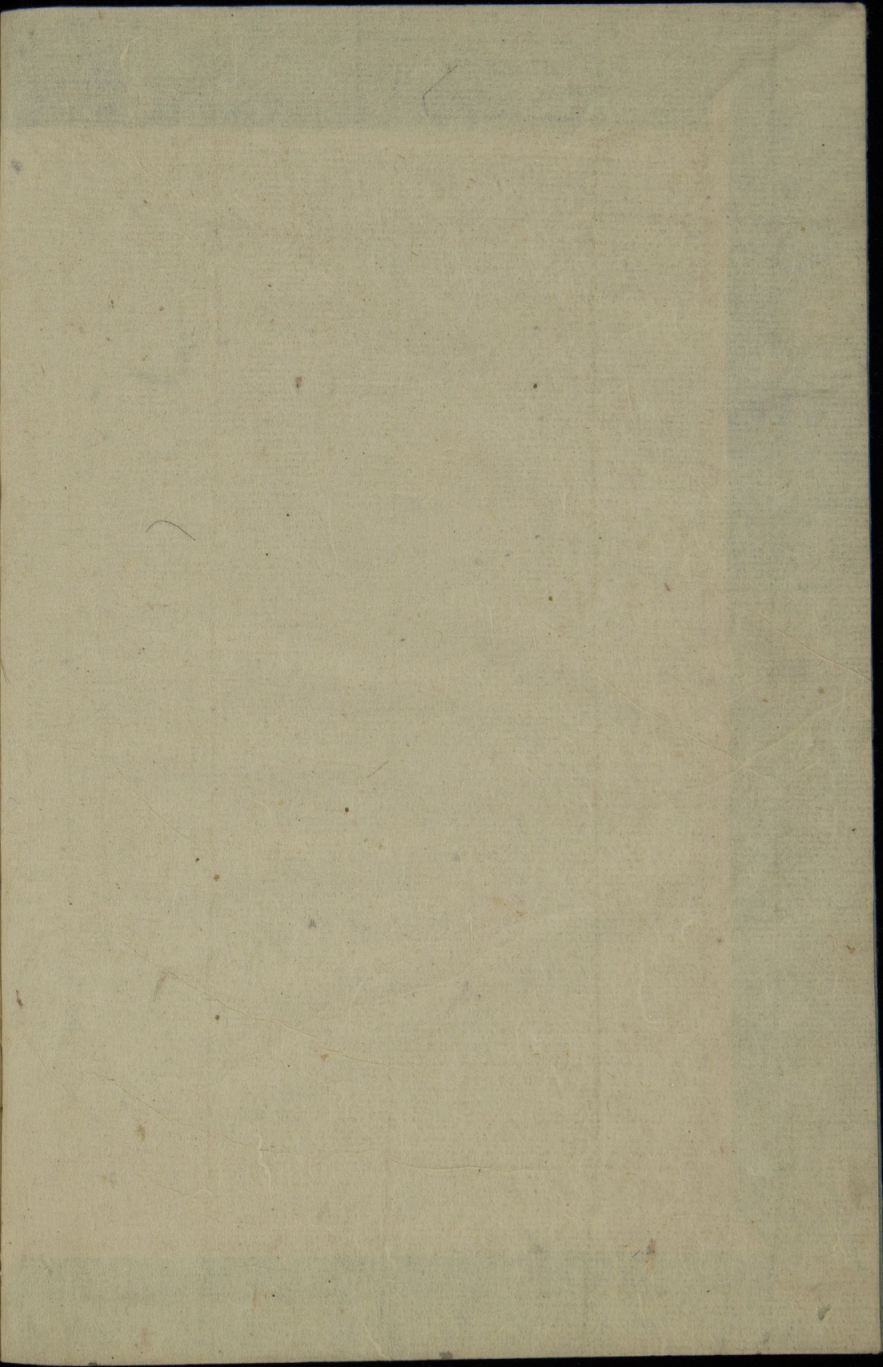
詞海

十

L807

七

2



詞通路中卷

詞の氣用の事

本居春庭著

詞は物の名も詞にもまゝとて公にたれどもさういふ所の之れ其の
きりうりてうり詞の字あり又この用は字ありさうり詞
ふも又な詞の字もあはれいと多く有て一紙たり又強
てそとをなしてあつた強行のこゝて歌のそとに
さも多しといふ。然るも多しとてなかり又序に
け物名をもほさるゝのちまをさあへといひたり
あゝといひる。さかたはたさうたを序
文古文よんこれとこれとさういふ事なり

のちゞれ交ふことなほなりけり
れもゝしうゝたはなほなほ
ろえおゝきん平一しゝまゝと
ふけゝかゝんゝ又ゝゝゝゝゝ
用ゝあやうゝゝゝゝゝ
うり次子奉ゝゝゝゝゝ

梓らとてれ山をさしてこゝれハ山をさしてありあけらるれそちりあけ
らと山をさすふらりていひしこちり

む運あけハ山をさすふらりていひしこちり
運をらりていひしこちり

ほれもかき人々やねしこちり山をさすふらりていひしこちり
山をさすふらりていひしこちり

か程そとよりいひしこちり山をさすふらりていひしこちり
山をさすふらりていひしこちり
ら何なり終いしこちり

雨ふれとてれ山をさすふらりていひしこちり
山をさすふらりていひしこちり

あつらへて置かざりしはこれかたはきりしはさうしう用ひし

夕つとよとせしれはまきし幕のきりしはさうしうやれし

夕有れそしきと小倉のさうしう用ひし

あつらへしはさうしう用ひしはさうしう用ひし

侍の幕とあつらへしはさうしう用ひし

あつらへしはさうしう用ひし

あつらへしはさうしう用ひし

あつらへしはさうしう用ひし

あつらへしはさうしう用ひし

あつらへしはさうしう用ひし

樽弓ハよふつゝし〜 柳河を〜 花河を〜 用う〜 緑
の河を〜 射〜 して〜 ちり

夕つ〜 柳河を〜 射〜 して〜 ちり
されも〜 け〜 して〜 ちり
う〜 柳河を〜 射〜 して〜 ちり
う〜 柳河を〜 射〜 して〜 ちり

う〜 柳河を〜 射〜 して〜 ちり
これ〜 柳河を〜 射〜 して〜 ちり
緑の河を〜 射〜 して〜 ちり

う〜 柳河を〜 射〜 して〜 ちり

是を却と興さしり用ひて極句をうらむよ秋の草むの草

とつしても後のよせしきしるさう

梅のこれちそよかなくよき西れううてつなくうひまねくえ

これちきさちの海まふと声を振つふううてそのうちれふ

ううううてむのちういしをねむせたるなれとあさし

ううううり

久しうもなちうけうれとねこのまに||に若しきおつそあさる

ひきもほにぬ極句のうううてねと清くううそのうせうて

えしうかうはりううり

みまのうらうもかううあ||あ||うや||きうはうい||うん

これをきくは申のおくと教ふうて栴何のさかたうとそ
縁れ何とてかゝるまゝえさやくいひちせうちり

かゝるまゝいふまゝきうゝゝ新舊のあきとゝ申けはらぬまゝこれと
是も衣をいひをあらはせさうりて初よる栴何と何ゝ
さて舊のやうと教ふまゝうてあきも栴何のさかたうとそえ
んの何とてきえなとてゝちり

そとあゝおゝ撥のよとをま粹もてうけいゝゝ縁浪をうりて
うまういひつげゝゝゝゝ撥の糸を粹もてかきあげゝゝと
たゝ縁とゝ糸の糸をうりてゝちりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あつちゆいひけくちまうとあくふくまうとやされぬのころは
とらりられぬまうとつひくくしてまうとあつちゆいひけ
ひくくして序まうと

ゆくのころぬくくまうと人まうとまうとまうとまうと
これとよむを序まうとつひけあつちゆいひけまうとまうと
うちまうと

ちちまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうと
こまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうと
まうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうと
まうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうと
まうとまうとまうとまうとまうとまうとまうとまうと

ハ人をあはれなされはらうとさねと喜をりひて人をまなれ
しうとあはれをあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし
かくんをせしうとあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし
古き経とも皆あやまりしうとあはれけりしうとあはれけりし

あはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし
古き経と人の喜くともあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし
いふゆへ序かして六歌のまゝあつていけ

あはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし
あはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし

あはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし
あはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりしうとあはれけりし

これに袖をうらを布留せりやうねり後世袖をうらと
りやうねり

ひらりして物をかへハ秋の田れつるそのまじりひとけるま
あきも縮葉のそまじりて依傍よまじりぢやむぢやとりやまふ
うらまらひとてわくまじりふ一白あま利なれと布留と
りやうねり

もみ川のほれハらる縮葉のつらよはあけりこのつきはこり
こハ上れるまを布留と縮葉のつらよとまじり縮と布留のま
じりまらひとてわく

あ〜川のぬん人のひとまじりふまれとりやうねりあやまらる〜は

是も何を幸ねてほと多きことりやさくれまふう用ひしり
かこれぬのりしせむねわらうれねなこた〜
こはよめいさ母のとりよここのさつうて何をさすねわらうこ
名宿をたるといつてささうり用ひさすめなうそ操よま〜
なれハキキふまをさすわてりしり

かち〜れみ〜し〜さのいつ〜のさつ〜
こはよめいさひつ〜を岩のさつ〜さな〜といひさすのは
〜き〜うて悔〜さ〜う〜
〜〜〜い〜を考へ念〜
〜は亦も終序〜

うれ〜田よけ〜ひつちの篠よぬれを世を今さ〜
〜あ〜

飽くくふ秋のそつとつね

去の世のそれちねとさうさめとれ数をつむとそおふ

積り橋のこらをわく

大そらもみさつつかいぬとれふとそそそそわさけ

ねよ路をち程てい

那とてうりしとみさのけきよとせのけよふやちぬ

舞ゆるかこみ路をち程てい

まのそやせきふわつとひささのゆゑかこははむとそを

互とりかまのこをち程てい

こめあけくくすわとつとつねをち程てい

疾しつゆは幸のこととて終り

うらふのこころはやとむらぬのゆゑとてんくもあゝぬとてつれを
きと行とてつれとてつれとてつれとてつれとてつれとてつれと
よていおくこととてつれとてつれとてつれと

けくくねのあふとてつれとてつれとてつれとてつれとてつれと
よのこころは春をとてつれと

別路をたゞしき人のこころをきやるゝとてつれとてつれとてつれと
遣は破とてつれとてつれと

あつたてゝおとせあつたてゝ茶は柄のちちとてつれとてつれと
如のぶふ茶をとてつれと

あひるねもうききとつたれうゝを思ひまゝかたむくひもくね

うゝをのわく小み身うゝとくひのうゝとくひとと兼いり

いそ山笠の下あうらまのひむこのねまハなつてやめぬれ

泣くく小流ととつたれやみ見らるるはのそむくもくねいり

宇治山のあまるとんまはたむのこゆへひもまきしけとあまり

日をふ氷急のことうのそりりゆめあめさまもり

あふろそりあはらまのやれを人をあはるはうひくてもあまり

飽は戻けをとつたれこらり

あふろふつれくとまぐれをよりとあひのまやまひつあを

こゝの森は子を思ふこゝとつたれいり

限なきかたうそは病はむまゝをれて人の志もとハなまやあゝ

下は我のこゝろをなめてしり

憂く不于は常とてなめてしり

まゝなりし事とてしりや清まりむ事集りてしり

憂ししりしりしりしりしり

なき人の形見をわつたあやしきハ志とてしり神のわゝるなり利

笑てしりしりしりしりしり

あゝれりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

君とてしりしりしりしりしりしりしり

ちうてそむもすなはれるま柳の糸をううてそみくこう柳け
是ハまきはまをよゝもさうけうけうされとあをよるれ縁
の何のこゝそあのをまよあうけ

そうけれと又もさうけうけうけうけうけうけうけうけうけうけ
こハ終無山を終とうけうけうけうけうけうけうけうけうけうけ
縁今うけうけうけうけうけうけうけうけうけうけうけうけ
作うけうけうけうけうけうけうけうけうけうけうけうけ

ちうてそむもすなはれるま柳の糸をううてそみくこう柳け
是ハまきはまをよゝもさうけうけうけうけうけうけうけうけ
の何のこゝそあのをまよあうけ
そうけれと又もさうけうけうけうけうけうけうけうけ
こハ終無山を終とうけうけうけうけうけうけうけうけ
縁今うけうけうけうけうけうけうけうけうけうけ
作うけうけうけうけうけうけうけうけうけ

夫等の田を人より奪ひて其れハきくむるをいつくしうとな
んを付ふ作をことごとくつくり是ハ田れ月のまじりてい
ちせしちり

是川のゆふしきりけやそやあやめのまじりぬるくなく
根もまどうねくりまて五月吾なれく菖蒲とよめちり
まよれとまじりけをなれくまおまそひふやいよあけけぬ
こハまよまじりひうけてまをうね起あふなれの新とね
又た後のゆそけぬととくちり

まよれとまじりけのまじり山をいつくまのまゆとまじり
まよまじりといひけて神後のこまよひちせりまてまのぬ

の細くそぢひのききるぬこしきくちり

意をのこえよはくすつれゆなれいふぬぬのこほね田んか
意をつねよさくを話にあらひいけ又そのまのふの程ゆ
りつを喜れこふ月ひくち

とくもあれは世もじういひさるゆり時もありくものさ
はまといつなをこいゆきね又常行小坂をゆとりつなをこ
初くちり

君の名もろくぬもそく新波ちるくちりつなはひききよふ
二はといひてふつとりつなをこく細引といひてをききやく
さよ月ひくちりなう新波のこくそつひちせなう

秋の田に種をまきと掛なくふ何とてしつ人のこころを
種を世に種としつて不月ひさそ種の縁をひとあひまはる
とつたは所を種とてしつても種のえん種なり秋の田の
とてて休まるとなるなり

公のよるの月をけりな境をて身ぞあつたふせしつふ
種を不種のころを種おひふ時のなつたは各面の平を
種をひひしつなり

春のゆく秋の白ゆき種も申すのよるくあつたをの種む
けしきはしつて種とてなり白ゆきつ種をまきこととてあつ
なりつともその縁なり又ニこれ白こととて種を種てあや

とさうしつななり

ころばの流きひくさうとをきつらみんぬあれ浦よりうらとこそそよ
汐の千ぶ屋のこととこそふね海ねよらんこそうねころばのち
ふねとこそてふのむてとをきくさなり

碇いぢーかここれとふさうりせく何よきのふのくさと揃ちし

かごみの花は形見の子とふね出まふふさとと葉らつらなり

こそれのころの糸とハ磯けともいさうらんをうらむしつなり

名のころといひえて辰の糸ねこととふね人をねふさとと糸

うちをこそてさうくふ糸ねまよもいねむしなり

あけくしつらうれいどくせつはねつのもよとねさなりぬる

田の實ふれを縁山田のそむつは彼のわれそむつは事を
うねてつやあり

思ひつよきときしるを思ひくや思むはむをありしを
かく思ふ思ししむ思むの序ありしを思ししむを思し

とつを思ふ思し人や思むとつを思ふを思ふ事を思ふ

あふ事のわし系そと思むを思ふ玉れ思ふなりなりなり

行系は思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

ふと系の思ふ思ふ

思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

人目を思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

河をくみくみくみくも川の縁ぢり

天にたれてるいほうくそをあふれと只よせえくやくんむ

流きてをせく久ききこくね月ひあれとおよその時や

りよはぬの事をくねくうあも川の縁をく

きこわいけいれぬの事よおつるふりきこく今くり大む

いなくゆよりひひてけく事をくねね侍きこくねく

かみゆきききれぬの事くくくねくもあれきき物

ときくゆよりひひて時とりや中ふくの月ひ又ゆく

いこくときこくねていこく

右に奉りたるくし行きまへく浪りなくいと多き一是亦なそ

て志とて——中よとふ活句とて事と兼用いふふいふと
 まきとては——きとあれくうひそのとむつれくあよくそ——ふふ
 へ——そとそと 平^{ナリ} 写^{ナリ} へともふ佐行四段のく——らきと句なれと
 なるとむ。なると。なれ。なとせとととと 平^{ナリ} へとも 写^{ナリ} 事とも
 なり又 句^{ナリ} へともふ波行四段の活と禁なれと へとむ。え。
 うふ。えとととと 句^{ナリ} へとも買^{ナリ} 事ともなり又 陪^{ナリ} 振^{ナリ} ともともふ羅
 行四段の活句なれと へとむ。う。う。う。えとととと陪^{ナリ} ととと
 振^{ナリ} ともともなりとれとハともふ句——活句なれととととともおき
 とも事なきと 悔^{ナリ} 悔^{ナリ} へともハ句——也行の活句なれと 悔^{ナリ}
 へ。くゆ。くゆ。くゆ。れと活きて中二段のく——らきと禁 出^{ナリ}

よそ。ころ。ころ。ころ。ころ。と。ほ。と。ほ。け。と。ころ。ころ。ころ。つ。つ。射。は。ま。と
ころ。ころ。お。よ。ころ。ころ。か。ま。ころ。用。少。き。と。ころ。む。これ。と。つ。ひ。て。ハ。ホ
と。ころ。年。ふ。れ。い。ひ。ころ。ころ。と。し。そ。ハ。お。ま。ころ。年。ふ。れ。い。ひ
て。と。と。と。と。と。用。ひ。ら。れ。の。年。ち。り

後撰

夕暮ハすつもわくる白霧のかくくつーくやまきえを穿らるる
至ハ加行四吸の法相にてあ。つ。む。あ。き。あ。く。あ。げ。と。ほ。ま。そ。あ。く。ろ。
と。ハ。ほ。う。ぬ。何。か。れ。と。こ。を。白。霧。の。ま。と。し。ひ。け。て。そ。れ。よ。る。り。
と。と。と。と。と。起。る。ま。と。用。ひ。し。と。な。り。つ。ひ。け。ハ。か。く。倍。の。な。と。と。ま。そ
こ。り。た。と。も。い。と。ま。り。

結後拾遺

ア。れ。な。り。と。ろ。ハ。ん。ど。と。山。本。の。ころ。ま。も。芥。れ。喜。つ。く。く。う。那

あをくらけ 羅行四段の法向きて ころむ ころり ころる ころれと法け
ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け
なれとを羅行 ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け
ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け
と羅行中二段のころる ころり ころる ころれと法け

拾遺 旋頭歌

釋らねとあうして ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け

あうりける 是を奥へ廿の入りて ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け
いづる ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け
いづる ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け
よてい ころる ころり ころる ころれと法け ころる ころり ころる ころれと法け

うたなうはふ陸をう。とりも保なき事なりやあまそく

拾遺

母申ふあまのちもえて。うねのちちうるかちちうるを

新十載

貴代うまつりきこし。とおふとの海の中うらたまふむ

くわくとひ陸をささむ。れ陸をささ。このふとく

くわとく。のちやくなりたる事をつらて。ふり。ふり。ふり。

と四行中二股小活きてさも何も呉事なりともや。於此木のこも

これうきあちとあち。れと今と。れねかひひてされと

移てその序ふりて。

よま奉とた大う。三代集のまもなり。後うを願りく。よ何も

さもいと巧まなり。もてきぬれ。程をひさよも。又いと多う。そを

となくわくふるそくしてとくまなり

詞の延約の事

右古事記書紀美築集小詞の如くうらうらふらふとあはれとあはれ
あり又つありうらうらふとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
ありうらうらふとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
とあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
ハ佐行と波行と羅行とふのうらうらふなりさうら佐行と波行や
小延うたふとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
行うたふとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
外の延約の如くうらうらふとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ

のことごとくは同くその活相の身一れ喜より依行波行は延り
 しるほなり加行の活相なれどかより延り多行の活相なれど
 たり延り麻行の活相なれどもより延りほなり又多行の
 身一の喜よりのみこそあれとまといふにり又自他のこと
 ろくは身一れ喜よりなりつてもあれとのこと同くを身一の喜よ
 りと身一の喜よりなりつて身一れ喜より延りしるほなりま
 延りてきく一つ二つあれとなり

れくくあしる相の例

○加行四肢の活相より依行四肢の活相よれくくしるほなり

あぶとつるほなり

あぶとつくなり

あふと縁なう。ハ

大御言なうきさうり

これとひくくせ。ハ

は戸ひくけさうり

ながなう。さあくハ

汝がなう。さうくさうり

なげまてつまふハ

なげく。つまふなうり

ふとさう。天下ハ

ふとく。天下さうり

うーときとあ。ハ

うーときと。ばなうり

() 多行四肢の活句より依行四肢の活句よのさうさうり

あくくふく。ハ

あくくふくさうり

あをま。はらむハ

吾をま。はらむさうり

ゆこさう。ハ

ゆこさう。さうり

○波行四候の活句より佐行四候の活句よれりしる

あさし。し。も。あ。ハ

あひし。し。も。あ。ち。り

う。り。ふ。き。こ。う。が。ハ

う。り。ふ。き。こ。う。ち。り

な。こ。も。あ。ぢ。ハ

な。こ。も。あ。ぢ。ち。り

あ。さ。し。た。ま。ひ。の。ま。ふ。く。ハ

あ。さ。し。た。ま。ひ。の。ま。ふ。く。ち。り

み。こ。と。と。ん。ご。も。ぢ。ハ

み。こ。と。と。ん。ご。も。ぢ。ち。り

え。つ。く。ま。ね。え。せ。ハ

え。つ。く。ま。ね。え。ち。り

し。れ。を。と。と。ふ。な。ハ

し。れ。を。と。と。ふ。ち。り

○麻行四候の活句より佐行四候の活句よれりしる

あ。さ。し。た。ま。ひ。ら。む。ハ

あ。さ。し。た。ま。ひ。ら。む。ち。り

あーふまなハ

あーふまなハ

なつふねこハ

なつむ子なハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

○羅行四肢の活相より佐行四肢の活相よけくをいふ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

いゆさろまハ

いゆさろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

あまーかろまハ

そしつゝあつゝさつゝハ

小田とつゝさつゝ

○麻行一版活字の佐行よのそつゝあつゝさつゝあつゝは行の言は拘らぬ
まつゝよ佐行四版の活字よのそつゝあつゝさつゝ

又しつゝあつゝハ

又つゝあつゝさつゝ

又しつゝあつゝハ

又つゝあつゝさつゝ

又しつゝあつゝハ

又つゝあつゝさつゝ

一版の活字のそつゝあつゝさつゝあつゝはそつゝあつゝさつゝあつゝはそつゝあつゝ
らつゝ又一版の活字しつゝ一喜れ何だれそ外の延つゝあつゝ何のさつゝ
とつゝあつゝさつゝあつゝ

○也行中二版の活字の佐行四版の活字よのそつゝあつゝさつゝ

いひふゑてこやせま

いひよ飢てこいゝちち

やこらやして

やこいてちち

中二肢の活句の延うたふとく是れをそやふんあうら

○奈行下二肢の活句の依行四肢の活句よのそをまうら

いそかきむをハ

いそねむをちち

いふーたせハ

いそねむをちち

かきむむこゆ急ハ

ねむ子故ちち

やまのーたせぬハ

やまのねぬちち

下二肢の活句の依行は延うたふとくこれのこをそをのちち係た

一、球をこれを一喜の活句をそなふうけりこれそかの例えたふ

さやふやゆれと從身一の喜たれと口一とささささささ
日あさうることなりし

○佐行變格の活句より口一—行の四肢の活句よのそとて

神さひせまてハ

神さひまなり

しひやくうせまてハ

旅をよりまてなり

けうせまてらしハ

泊まらしむなり

こを身四の喜れせよりけそとてアとて口一はて身四の喜よりけ
しひは是のそとてかの行も必ななれとけ變格の活句の身四の
喜ハまかそとて四肢の活句の身一の喜と交してそは口一けれハ
ことなることなりし

存られしは、佐行よのそとありて、ハおのつて、そのそとありて、
つゆも多し。又、れそりて、四股小活く、そのそとありて、
さすもたつても、あれと多く、ハ活きたる、そのそとありて、
後のそれ、何ともなり。

祝詞よ、いけと、いせと、ありて、いけと、ありて、ハ多行四股の
活詞の、佐行ト二股の、活詞よの、そとありて、
二股の、活詞よの、そとありて、
皆四股の、活詞なれと、いけと、いせと、ありて、
き、保あり、又、なごいせ、こそとありて、
なごいせ、こそとありて、保あり

おーひーう。縁ハ

おーひーけ。るり

これ日くく。縁ハ

は日くく。せ。るり

いとひま。縁ハ

いとひま。で。るり

うくたち。縁ハ

かくく。れ。るり

あめをたす。縁ハ

あめを。るり

これをも。延。う。何のきまなれ。こ。ふ。出。一。つ。て。ふ。く。は
う。れ。如。く。四。肢。の。活。向。の。身。一。れ。喜。か。さ。こ。く。ま。ら。ふ。ね。り。の。派
ど。り。た。る。を。お。不。ま。さ。さ。こ。う。月。ひ。く。り。夜。今。集。り。り。あ。る。る。ま。の。縁。ハ
弟。の。ま。は。縁。よ。そ。つ。う。ひ。さ。な。の。こ。と。な。り。あ。る。ま。の。ま。は。縁。も。身。二。の
喜。き。ま。ち。ひ。み。で。り。る。り。り。て

あておろしき。縁ハ

あておろしき。せさり

なほもおろしき。縁ハ

なほもおろしき。さり

これとくしき。縁とハ

これとくしき。さり

さてもや。縁。う。ハ

さてもや。め。う。さり

み。う。し。き。あ。り。縁。ハ

津。格。子。さ。り。あ。り

なとありき。一岐の活句も。二の喜き。よ。ひ。み。い。お。中。二岐の活
と。紫も。身。二の喜き。ち。ひ。み。い。也。お。下。二岐の活句も。身。四。此。喜。え。
け。せ。て。ね。へ。め。え。化。志。う。ね。も。の。そ。り。り。て。あ。り。さ。り。と。と。あ。の。さ。
を。兼。し。く。保。ち。り。ゆ。の。こ。

いりき。て。ち。き。縁。ハ

入。事。て。縁。よ。さ。り

ううんまういふ縁ハ

猪うんしんてきり

うやうういふ縁ハ

うやううれきり

はちとふ子縁ハ

かかるとけきり

うらとふ子縁ハ

うらとふとけきり

これら二行の身一のまじり佐行は返つて又ま佐行の身一はまじり
 うやねとくうとて二まふ返つたう何たうあけのふせや
 のくうとふせのまじりあふ縁と返つてうなうとくまうせ
 と返つてませの又まう縁とのまじりたうまじり此かとこれよ
 なまうてまう

○加行四段の活用の波行四段の活用ののまじりてまう

いひきゑひけりハ

いひつきけりちり

はふふもつよハ

つ。川はふなり

いらはふハ

いらつとちり

ちくちくハ

ちくちくちり

なびゑハ

なびき〜ちり

ちく〜詞と字鏡小ほつ。とあふさほぐちり

○佐行四辰の活句の波行四辰の活句小の〜と〜と

うくさげぬあ〜きんちり

うくさぬあ〜きんちり

うくさふへ〜ちり

うくさ〜〜ちり

うくさふ〜ちり

うくさ〜ちり

えいごい

かー。ちり

けいごくと押してまよ。ハ けいごくと押してまよ。ちり

ちりごいごいごい。ハ ちりごいごいごい。ちり

まろくことまろくごい。ハ ちろくことまろく。ちり

ちりごいごいごい。ハ ちりごいごいごい。ちり

○多行四段の活句の波行四段の活句よのくくくくく

まろくごい

ちろく。ちり

右活句よあろくくく是のくくくそあろくくく

○波行四段の活句の活句よのくくくくく

あろくごいごいごい。ハ あろくごいごいごい。ちり

うらむ。ふハ

わひま。む。む。む。ハ

ふね。ふ。ふ。ハ

ふ。む。む。む。ハ

○麻行四岐の伝説の波行四岐ふのそくそくそくそく

す。ふ。ふ。ふ。ハ

は。く。ま。む。ハ

や。ま。む。む。ハ

ま。む。む。む。ハ

ふ。ふ。ふ。ふ。ハ

うらむ。む。り

わひま。む。む。む。り

ふね。ふ。む。り

ふ。む。む。む。り

○麻行四岐の伝説の波行四岐ふのそくそくそくそく

す。む。む。む。り

は。く。ま。む。り

や。ま。む。む。り

ま。む。む。む。り

ふ。ふ。ふ。ふ。り

こころぬまをまよむに
あまふふまよむに

こころぬまをまよむり
あまふまよむり

○田維行四岐の活句の波行四岐の活句よのくくアアアア

このくく

おのれるり

うちまをくりて

うちまをくりてるり

かくくくくくく

かくくくくくく

ちくくくくく

ちくくくくく

つくくくくく

つくくくくく

くくくくく

くくくくく

あまふまよむ

あまふまよむ

みちききびつ

みちききつ

きききき

きききき

○多行中二股の活句の波行四股の活句よのくくくく

くくくく

くくくく

くくくこれのくくく

○波行ト二股の活句の口活句よのくくく

くくく

くくく

くくくくくくく又加行佐行麻行羅行の四股のくくく

のくくくくくくくくくくくくくくくく

なく波行ト二股の活句よのくくくくくくく

れと序はつゝもつり是亦と身二れ妻の身四のまふつりなるはあやう

○羅行下二段の活句の波行下二段の活句よのくくくくくく

かろくろくろくろく

かろくろくろくろく

かろくろくろくろく

かろくろくろくろく

くくくくくく

くくくくくく

又くろくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

またなれは行の四段の活句の波行四段の活句よ延くくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

の活句よ延くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

四股の活詞の方より波行よ延く〜〜〜もあ〜〜〜を申さる
は行の下二股の活詞よかきうてちくハ四股の活を禁よ活〜〜
〜〜〜れ〜れあり万禁よ なる。水凍め 又なる。さき〜この〜
かとあ〜〜も四股の活詞の保るれ〜ちり

又波行下二股の活詞よかきうてちくハ四股の活を禁よ活〜〜
佐行四股の活詞の かな。曰下二股の活詞の かな。とらあこと禁の
の〜〜りたるなる〜〜そのなを伊智物語よ あさの夜のみねを
一ねふかきい。つて八千夜し移るやあくときのあるとある云の
のえ〜〜よ 秋の夜は千夜を二ねふかきい〜〜詞の〜〜りてちくや
かうき〜〜あ〜〜て〜〜れ〜〜又 なる。さき〜なる。さき〜なる。

とあるは此の身三世者と身子の言よりあれはよりしむるは又
よき。つるを不浄なる身をきふふられてさける所のなきまがり
やうによき。つるも あつてこそかきよすまふらう。とや
よき。つるを不浄なる身をきふふられてさける所のなきまがり
よき。つるを不浄なる身をきふふられてさける所のなきまがり
よき。つるを不浄なる身をきふふられてさける所のなきまがり

又けるをけふ。びとらる事ありあはるそのはけふ。とらふ
よきをかくつるはこれとなくも口候もはける初らる。まくと
さやうもはるくき初めのとらるもあつてはけるをさあつて
身四の言の身三世者ふらう。つる初これうきあれたる
よき。つる。又つとらるもあつてとあるはつとらるみでと

のくさるゝかゝれと、みづゝまひてとりてくさるゝまをさうく。てと
あゝまをさうく。てたれとまをさうく。びととくさるゝまを
らゝとては、まをさうく。ととあゝまをさうく。たれと
とてたれとまをさうく。ととあゝまをさうく。ととあゝまをさうく。
のまふらゝとてなまゝ又うらゝびとあゝまをさうく。ととあゝまを
くハ四股も活きとれと、は行の四股の活細の波行四股の活細よの
くさるゝたゝまゝ

○加行四股の活細の羅行四股の活細よのくさるゝとて

むゝ。くさるゝハ
むゝ。くさるゝ

○佐行四股の活細の羅行四股の活細よのくさるゝとて

たくりなまゝなハ

たくりなまゝなま

みりなまゝなりてハ

みりなまゝなりてあり

○波行四岐の注廻の羅行四岐の注廻よのこゝろを

うこなまゝハ

うこなまゝハ

あきこまゝハ

あきこまゝハ

又こまゝハ。あきこまゝハ。どあせこまゝなりたるなれどもよくや

口く波行四岐の注廻の羅行四岐の注廻よのこゝろを

もこまゝハ。あきこまゝハ。どあせこまゝなりたるなれどもよくや

のまゝハ。あきこまゝハ。どあせこまゝなりたるなれどもよくや

○麻行四岐の注廻の羅行四岐の注廻よのこゝろを

命をちりぢりハ

命をちりぢり

風なごころハ

風なごころ

こゝかぢみりハ

こゝかぢみり

ちよそぢりハ

血よそぢり

はくまふりハ

はくまふり

○加行中二股の流洞の雁行四股の流洞のくろくま

不つえをまぢりハ

東枝をまぢり

右のくろくま三枝をまぢりけしむるはよまぢり

まぢりこれとよふせむはくまのまぢりとのくろくま

た二つのまぢり

○波行下二股の活向の羅行四股の活向よのそりしきま

よみをそりてハ

よみをそりてさち

○也行中二股の活向の羅行四股の活向よれそりしきま

こや。こや。こや。こや。

こゆ。こい。さち

け外見あしりこいさこいさうひなとらるこひさり又さ

活のよそ。ふ。く。ま。よ。よ。さ。り。つ。ま。も。世。よ。さ。り。な。と。あ。は。依

行下二股の活向のよそ。ま。ま。り。活向の延うしきま

○二まよれそりしきま

し。り。を

た。ひ

た。ひ

こ。ま。よ

ま。ま。り

ま。ま。り

ふれを ふうを ふうを

たうも羅行の法約の波行よのそくりまう佐行よ延うしんちり
ととふも波行の法約の羅行よのそくり又波行よ延うしんちり
ふれも羅行の法約の波行よ延うまう波行よのそくりしんちり
又いふそりうまうもこまふのそくりたうそまうまていごう
のうまひうまひと延う又いふそりうまうと延うしんちり
されといまひうまひと延うしんちりあつと延うしんちり
あつ又きんまうもあつもきんあつこまふれそりしんちり
ときんまひとんちんちんちん

まうてよまあけしんちり佐行と波行よ延うて四行よ法約

いともおわく又活きぬさやうなるも多し一異行なるもおなりさ
 ちかたうく佐行波行小延くくもこれいさうことなるゆきもんえ
 しく終このか多うくし皆まわくふなきくして多し一
 又なく四肢の活詞の才三れきくをづふむるのを才二れきく
 たむおらううくとれきうういことありさ

○加行の活詞よてハ

ひまのきくくよハ	ひまのきくくふちり
ゆくをまうよハ	ゆくをまふちり
こつかけくをハ	こつかけくをちり

○佐行の活詞よてハ

おまへーもろく。ハ

おまへーまろく。ちり

おまへーめろく。ハ

おまへーめろく。ちり

めろくもろく。ハ

めろくもろく。ちり

○波行の活詞よそハ

いろくもろく。ハ

いろくもろく。ちり

いろく。ハ

いろく。ちり

きけハ志ぬく。ハ

きけハ志ぬく。ちり

めろくもろく。ハ

めろくもろく。ちり

○麻行の活詞よそハ

めろくもろく。ハ

めろくもろく。ちり

又四肢の活細るをあてぬ。むるのてふをそれを行め。骨一れ言
なまら。うう。く。との。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

○奈行のぬのてまをそのれをううううう

あひ思ひなま。ふ。

あひ思ひぬ。ふ。う。

らうれ。う。う。う。う。

あひのう。う。ぬ。う。

そむれなま。ふ。ハ

そむれぬ。う。う。

もなう。う。ふ。ハ

もなう。ぬ。ふ。う。

うちのま。う。う。ハ

うちのま。ぬ。う。

○麻行のむのてまをそのれをううううう

う。う。く。ふ。う。く。ハ

う。う。く。ふ。む。う。の。う。

たぐち。そしきハ

くむ。みめそしきちり

なごち。るさす。ハ

ちつなごちむ。ちり

ふち。ハのちハ

ふむ。ハ後ちり

おち。ち。もハ

おちらむ。もちり

うよひけち。ハ

うよひけむ。ちり

ひさしけち。ハ

ひさしけむ。ちり

○羅行のる。れてるをのほし。ちり

おち。ち。ハ

おちち。ちり

おち。ち。ハ

おち。ち。ちり

さめ。ち。ハ玉の流。ちり

いづかどといふぢけ。ちぢけ。なぢけ。うけ。よけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。

又よれをのうけ。ふあきね。そと。そと。そと。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。

あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。

〇うらむぢけ中

又梓らうらむれゆ辺の志げう。小まことあつむ。志げきとりよ
こころるれとよま奉らむ。四辰の法相の候とふたごうこれそ
けわよハ候えあつむ。

又ねらうらむれけ。志ら小書記ふひーうられさけ。ふ
らふらあつむらうらむらうらむらうらむらうらむらうらむ
えくけ。もくけ。のさつむあつむ。

又たひらけ。のまけ。やまけ。なごらむらく志まの
活のらうらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ
序よらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ
けらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむ

はくせうりくしつ例

○加行の法相よりくあゝの取らうとくこといと多し一ふたつ
へてく志きの法志く志志きの法相のくくくよあうとくしつ
のそくくくくく

まきのくくくくく

人くくくくく

あくくくくく

人のくくくくく

なまのくくくくく

秋のゆつくとあやうく

むしーしーやこーしーけむ

なまら名取ていさーしーりりり

るやう個のいとなまーしーむ

そとなーしーあろる。みり思ふ

意ーしーごきおそれ月を

老せぬ秋のひさしーしーく

なま。れしーしー折らぬまのこ

はさしーしーれとハ折らぬおを

ひさしーしーれあさまらるかや

まて。な。れ。を。な。れ。ど。あ。ろ。れ。を。あ。ろ。れ。ど。う。れ。し。れ。を。

頭とかうあまうあひえり

又とーとーくもけーけーくもなとりあもありそを

まきとハ信そさうさふたれとまーと信まそりせうう似

丁々たれい序よんてり

又とまけふよそそのひそひうひく。痛く。とつてあり

又とまけふよそそのひそひうひく。痛く。とつてあり

又とまけふよそそのひそひうひく。痛く。とつてあり

又とまけふよそそのひそひうひく。痛く。とつてあり

又とまけふよそそのひそひうひく。痛く。とつてあり

又とまけふよそそのひそひうひく。痛く。とつてあり

いのちぞーげむハ

いのちぞーうむるり

ふとのまげ。むハ

こゝのまげ。むるり

こひぬ日かけむハ

こひぬ日な。むるり

あひーげむハ

こひー。むるり

こゝろーげむハ

こゝろー。むるり

んまろくやまげむハ

んまろくやま。むるり

是亦もちまむりて後まよひをさしこゝろを又とまひーげあやとい

ひつとあまほきとまひー。めやといこゝろをあやうーまあなつ

ら志志きといはる子れとまあはけはあまおろえけ

又まれさげさくにもこれな。なうたてよなうとて甲ーひ

さ。あ。れ。と。は。ほ。ゆ。よ。ん。あ。い。し。ん。

又。な。と。り。ふ。が。つ。も。ち。て。け。と。し。と。あ。り。は。の。う。れ。の。う。を。別。く。あ。
め。つ。す。り。し。る。ち。ち。ち。

う。は。げ。ど。い。

う。は。げ。ど。い。

と。や。げ。ど。い。

と。や。げ。ど。い。

く。や。げ。ど。い。

く。や。げ。ど。い。

ま。て。ら。ひ。し。げ。こ。う。の。さ。む。せ。む。と。あ。ら。ま。ら。ひ。し。げ。こ。う。の。さ。む。せ。む。
ら。そ。と。ひ。し。げ。こ。う。の。さ。む。せ。む。と。あ。ら。ま。ら。ひ。し。げ。こ。う。の。さ。む。せ。む。
れ。と。ら。ひ。し。げ。こ。う。の。さ。む。せ。む。と。あ。ら。ま。ら。ひ。し。げ。こ。う。の。さ。む。せ。む。
又。う。は。げ。を。う。は。げ。な。し。し。る。ち。ち。ち。

又。き。こ。の。ゆ。う。て。け。と。く。る。を。け。わ。ご。う。よ。先。け。な。く。ふ。け。ち。む。
け。ち。む。な。と。考。ふ。多。く。し。ひ。て。長。な。る。こ。と。か。し。

又。け。ち。む。ご。き。な。ご。き。げ。な。と。あ。け。ま。き。こ。の。ゆ。う。と。な。り。

又。ひ。げ。ご。う。の。ご。ご。ひ。げ。つ。ま。ご。と。あ。け。ま。ご。の。つ。ま。り。い。る。ま。て。
ひ。い。れ。ち。り。

又。つ。う。ひ。の。げ。れ。ご。と。あ。ま。き。あ。れ。の。ゆ。う。て。う。れ。と。つ。あ。が。身。四。れ。言。
よ。う。つ。う。て。け。れ。ご。と。つ。ま。り。身。一。の。喜。れ。身。四。の。喜。う。う。い。い。
る。身。上。と。ま。つ。ひ。て。係。多。し。古。事。記。傳。は。參。渡。來。を。ま。う。あ。り。し。
ま。ひ。が。と。ま。さ。そ。て。け。り。ま。て。ま。ま。を。め。け。り。よ。あ。り。ま。て。あ。り。を。
つ。ま。て。ま。ま。と。い。し。ま。ま。と。い。し。れ。る。を。お。な。り。ま。海。ち。り。と。い。

しうけ

又このあがげ。いもが。後。は。い。き。あ。の。ゆ。う。て。け。と。い。く。さ。り。
さ。り。な。げ。ち。と。ま。い。ら。い。き。あ。と。ま。い。ら。さ。り。け。せ。と。な。
の。と。あ。さ。き。し。あ。の。め。れ。ゆ。う。と。な。り。き。し。い。け。ま。て
ま。を。佐。行。ま。の。こ。う。う。と。な。り

人。と。ら。く。け。ち。と。あ。さ。げ。ま。い。せ。の。ゆ。う。て。け。と。い。く。さ。り

○佐行の活。ま。て。び。あ。の。ゆ。う。て。び。と。い。く。と。ま。い。ら。さ。り
こ。ま。の。ま。の。び。あ。と。い。く。の。ま。い。ら。さ。り

ま。の。ひ。は。油。を。ま。い。ら。さ。り

ち。と。い。く。ま。い。ら。さ。り

せけうふもものきこもさうむ
 あこぶううーし油のうちよわやけむ
 うのふけうとハヤウぶうーしを
 羨ふつうもあうぶうけり
 けうも人のきこもさうむ
 さけらうぶうむのふゆむ
 さきふけうーな味んぶうふ
 さてぶれとらううちひうめたれでうやふうけあふえけ
 文よまいとまうー

又ぞあつてまうてぶとらう事あうまうぶうけあふ

ぶうけ。なまこくさふ。踏むよれこしひてかよさくしひこ
るこまか。

又さ。あげをさ。げり。あげをめ。げとんこもあり
又約をこま。せとあ。約をこ。ら。せてちり又一せ。あせ。な
とのせ。ちと。くのほ。やうた。ま。

○多行の法。てら。あ。の約。てと。と。てあり

あ。こ。る。や。の。集。な。れ。

母の。こ。み。と。と。も。

こ。つ。み。の。き。も。

又ら。あげを。ら。げ。ら。あげを。ら。げ。な。ら。あ。

あしうらち。ほそと。ら。ひ。し。な。く。又。か。か。ん。の。お。か。ん。で。こ。ん。ご。ん。
と。こ。ろ。で。あ。し。ひ。な。を。あ。ら。わ。り。て。又。か。か。ん。で。な。ま。あ。り。
又。て。あ。の。ゆ。う。て。た。と。ら。も。あ。り。

お。い。わ。い。し。む。よ。さ。

こ。れ。も。ま。あ。く。こ。う。ふ。お。し。な。あ。わ。

あ。し。う。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。

ま。あ。の。う。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。

う。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。

た。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。う。ら。ち。

お。い。わ。い。し。む。よ。さ。

後めゆをててくれ

さて ああをいそいそと
沸ふあをいそいそと
なとつていそいそあり

又とあのだとゆりいそをいそあをいそいそ漢文訓は君君いそ
け臣臣いそいそ然いそいそ如いそいそいそいそいそいそいそいそ
右事記傳ふ告言汝者任我宮之首をいそいそいそこの宮のあひ
いそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

又といのゆりてちといそいそあり

いそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

あねちよこいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

よきことばのまじりたることばをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

あはれはあはれをいふことば

○奈行よとぞき。あ。の。つ。ま。う。て。な。り。つ。ま。う。た。よ。い。と。あ。り。見。も。よ。の。て。ふ。と。ふ。あ。り。と。い。く。こ。の。そ。う。い。ふ。ま。う。

秋。あ。り。て。あ。い。わ。い。わ。い。き。

う。く。る。み。の。き。い。み。さ。り。と。

ね。も。む。う。の。ま。さ。し。う。か。う。ふ。

か。う。く。れ。標。と。あ。い。わ。い。わ。い。き。

ふ。ち。と。せ。ふ。か。う。の。ま。さ。し。う。か。う。ふ。

こ。も。あ。い。わ。い。わ。い。わ。い。き。

あ。い。わ。い。わ。い。わ。い。わ。い。き。

あ。い。わ。い。わ。い。わ。い。わ。い。き。

さしつかへなくしつゝのやまの

あやふくはれ林の想をれと

おくれであやふくをれと

せとくふかねやまのつねを

又新嘗とよひかごとくやまよひのあけのゆるかきま記のうゝよ
ひめなそびよとあまを眼のあそひまもなうられなおもこれ
のあわちう又さすこころごとくやまこのころれそいなる又江
舟小結葉とくく縄とあまを和名抄小加久能阿和はらへとあうと
れらものあわちうつまうしとあう

○波行よてハのさまをのさむく人をもれをひとさくなが

う。せ。ら。ハ

う。せ。れ。む。ハ

○多行よてま

日。を。ま。て。ら。む。ハ

甲。て。ら。ハ

甲。て。ら。ハ

甲。て。れ。む。ハ

○波行よてま

人。の。つ。ら。む。ハ

つ。ら。む。ハ

う。せ。ら。ち。ち

う。せ。れ。む。ち。ち

日。を。ま。て。ら。む。ち。ち

甲。て。ら。ち。ち

甲。て。ら。ち。ち

甲。て。れ。む。ち。ち

人。の。つ。ら。む。ち。ち

つ。ら。む。ち。ち

つゝゝゝハ

つゝゝれどハ

○麻行よてま

まれららめらむハ

うらめらハ

うらめらハ

うらめれどハ

○四維行よてま

るのふれらむハ

ふれらハ

つゝゝいあらむら

つゝゝいあれらむら

まれららめらむら

うらあらむら

うらあらむら

うらめれらむら

るのふらあらむら

ふらあらむら

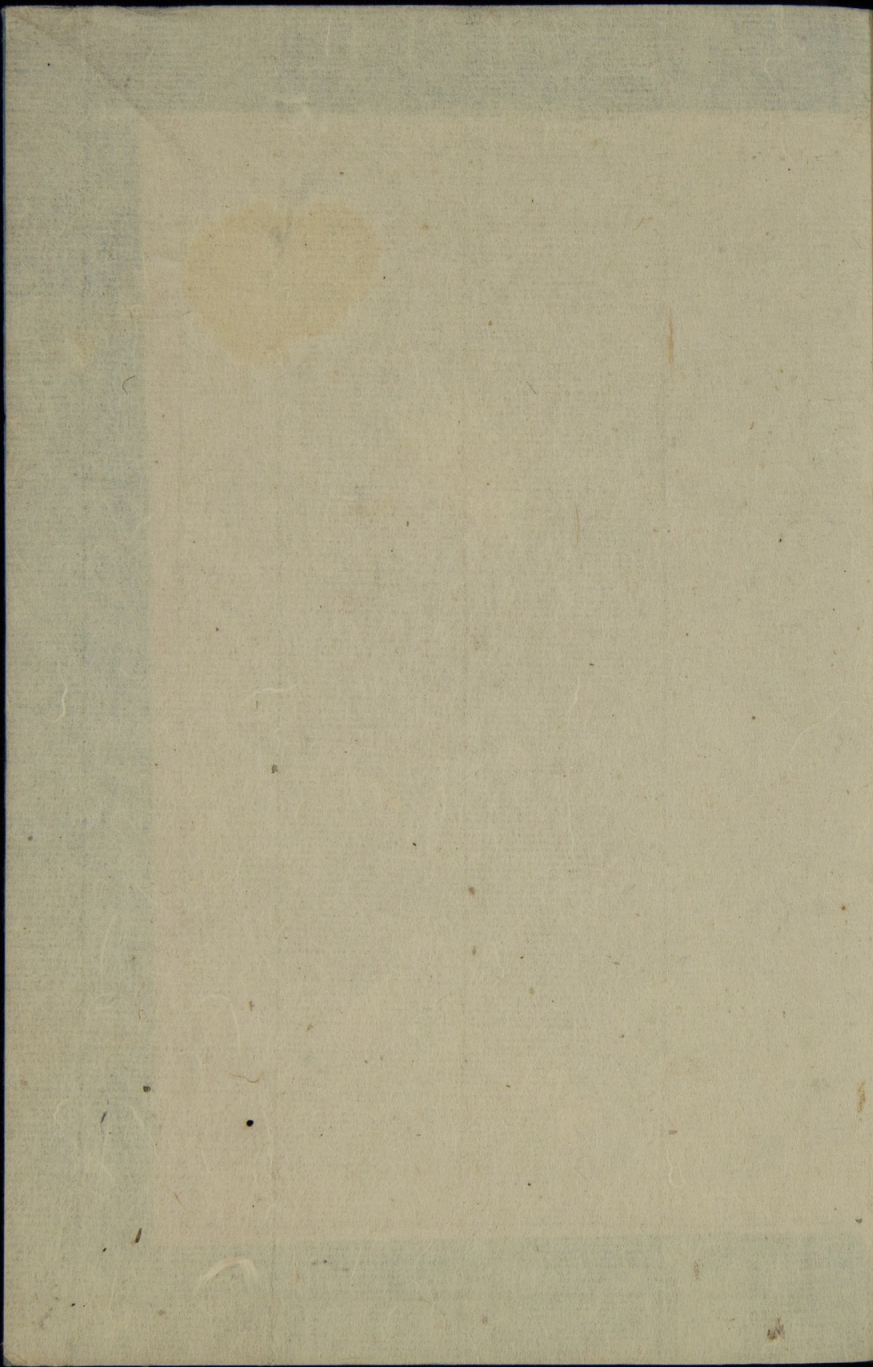
ふれ。る。ハ

ふ。あ。る。る。

ふ。れ。ど。ハ

ふ。あ。れ。ど。る。

右も四候の活句よりきうしれと阿奈也知の四行よハナ
たの奉しと延路の初も行多しことふ路しとてかき
なうしとてちりさうとてさうわふちとてさう



 三重県立図書館



140158544